TOPICS 01

無花粉スギ、無花粉ヒノキの開発・普及

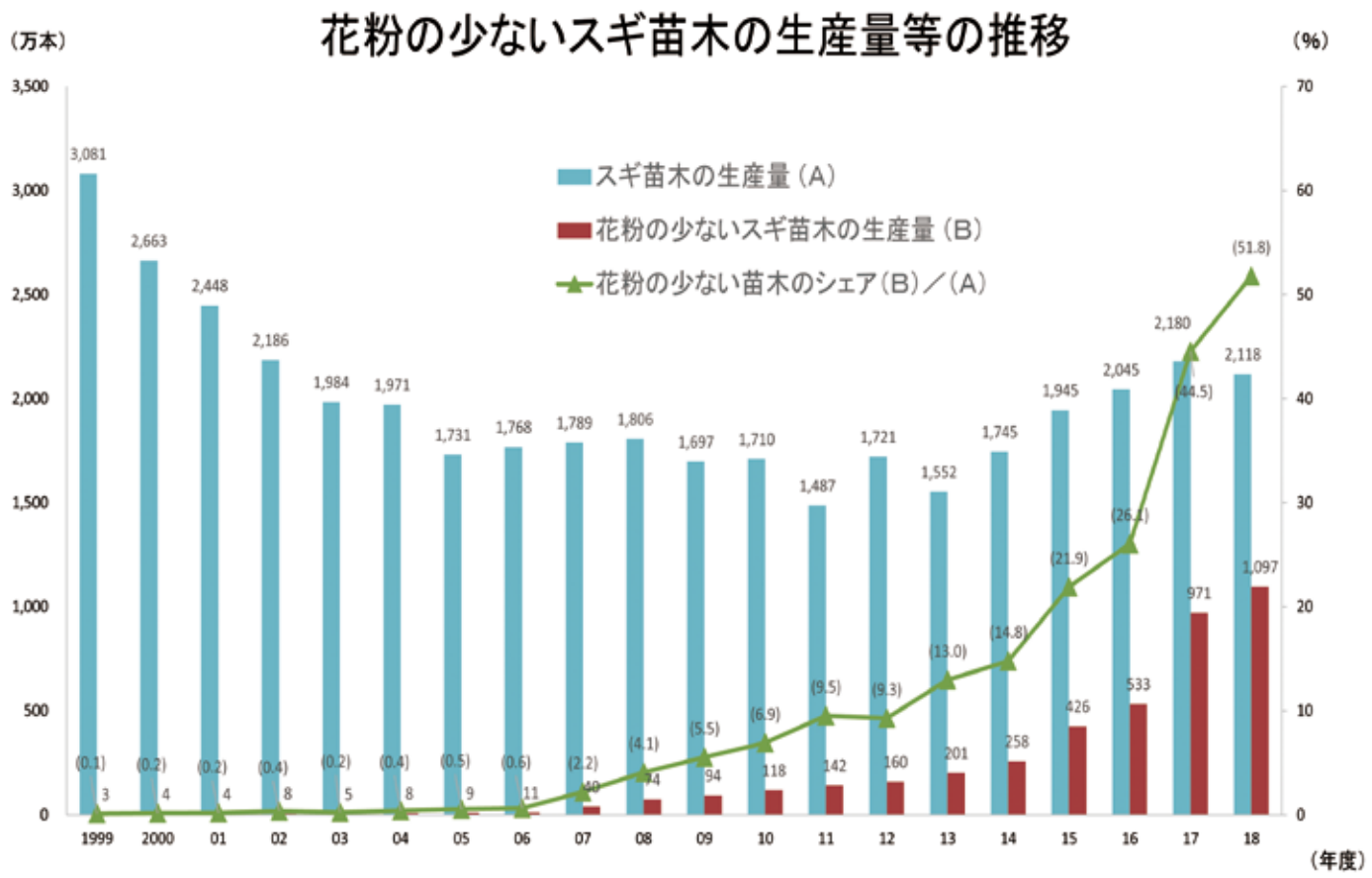
ー花粉の少ない森林をつくるー

スギやヒノキは、成長が早く、加工等もしやすいため、建築材や家具材などとして私たちの生活に幅広く利用されてきた樹種です。このため、戦後荒廃した国土に各地でスギやヒノキの植林が進められ、約1千万haある我が国の人工林のおよそ７割をスギ・ヒノキ林が占め、現在ではその半数以上が持続可能な資源として利用期を迎えています。

その一方で、春を迎えるこの時期からはスギ・ヒノキ林から花粉が飛散し始め、国民の約４割が罹患（りかん）しているとも言われる花粉症の原因のひとつとなっていることから、その対策が求められています。

このため、林野庁では、花粉発生源対策として、花粉を発生させるスギ・ヒノキ林の伐採・利用を進めるとともに、花粉の少ないスギやヒノキの苗木による植替えや広葉樹の導入による針広混交林化などによる花粉の少ない森林への転換や、スギ花粉の飛散を防止する薬剤の実用化に向けた取組を支援しています。このうち花粉の少ないスギの苗木の生産量は、平成30年には1千万本を越え、10年前の10倍以上となっています。

特に、最近では花粉を全く生産しない品種である無花粉スギ、無花粉ヒノキの研究開発が進み、その苗木の生産が進められてきています。今号では、無花粉スギ、無花粉ヒノキの研究開発・生産を先進的に行っている２地域の話題をお伝えします。



資料：林野庁業務資料

富山県の無花粉スギの取り組み

富山県は、平成４年に全国ではじめて無花粉スギが発見された県であり、無花粉スギの研究開発に先進的に取り組んでいます。無花粉スギは、雄花は着けるものの、その中に花粉が全く生産されないスギです。この特性はメンデルの法則により、遺伝することが分かっています。この特性を利用して、無花粉の性質を持ちつつ、より林業に適した苗木の品種開発が行われてきました。そして、富山県では完成した優良無花粉スギを平成24年に「立山 森の輝き」と命名し、本格的な普及を行っています。現在、富山県で生産される全てのスギ苗木が無花粉スギとなっており、また、令和２年には県外に初出荷するなど、富山県では無花粉スギを中心とした花粉発生源対策が着実に進められています。

ビニールハウスで生産される無花粉スギの幼苗

（写真提供：富山県）

神奈川県の無花粉スギ・ヒノキの取り組み

神奈川県は、花粉発生源となっているスギ・ヒノキ林の花粉の少ない苗木への植替えや針広混交林化を計画的に実施するとともに、早くから花粉の少ない苗木の生産に向けて取り組みを進めてきました。平成16年からスギ苗木の全量が花粉の少ない苗木になり、平成28年からはスギに加えヒノキについても全てが花粉の少ない苗木となっています。また、近年、スギと並び花粉症の問題となっているヒノキの花粉発生源対策にも力を入れており、平成24年に無花粉ヒノキを全国ではじめて発見して研究開発を進め、令和３年春からはこれを苗木として出荷する予定となっています。

花粉の少ないヒノキ苗畑

無花粉ヒノキ

（写真提供：神奈川県）

林野庁の普及活動

【スギ・ヒノキ花粉削減対策シンポジウム2020】

林野庁では、一般の方を対象として、最新の花粉発生源対策の取組や花粉予測などを紹介するシンポジウムを開催しています。

今年度は12月19日に横浜市で神奈川県と共催で新型コロナウイルス感染症対策をとった上で約100名の方にご来場いただきました。

シンポジウムでは、林野庁の花粉発生源対策や神奈川県の花粉の発生が少ないスギやヒノキの苗木の開発等の取組、花粉症対策品種やスギ花粉飛散防止剤の紹介、花粉と気候の関係、花粉症の治療法などについて講演を行い、スギ・ヒノキ花粉削減対策について幅広く紹介しました。